



週報

2016~2017 年度 RI 会長 ジョン・ジャーム
RI のテーマ 『人類に奉仕するロータリー』
地区のテーマ 『知恵と元気を』 ガバナー 前嶋修身

国際ロータリー
第 2570 地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕 狭山東武サロン 〒350-1305 狭山市入間川 3-6-14 TEL 04-2954-2511
〔事務所〕 〒350-1305 狭山市入間川 1-24-48 TEL 04-2952-2277 FAX 04-2952-2366
<http://www1.s-cat.ne.jp/schuohrc/E> - mail:schuohrc@pl.s-cat.ne.jp
会長 佐藤圭司 会長エレクト 宮野ふさ子 副会長 小島美恵子 幹事 益子伸明

〔第 3 グループ内の例会日〕 新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(火)、所沢西(火)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第 1100 回(9 月 6 日)例会の記録

点 鐘 佐藤圭司会長
合 唱 国歌斉唱 奉仕の理想
第 2 副 SAA 浜野会員 稲見会員
ビジター 米山記念奨学部門委員長 忽滑谷明様
シルクランド画廊 顧定珍様
米山記念奨学生 ホロワさん

※出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
34名	25名	72.72%	87.5%

会長の時間

佐藤 圭司 会長



今日は普段何もやらない私が一つだけコツコツと続けている 10 年日記というものについてお話ししたいと思います。2007 年から 1 日 3 行の日記をつけ始めて、2016 年の今年で丁度 10 年となり、非常に達成感があります。

自分の 10 年間の歩みの中で、たった 3 行の中に一日にあった事が色々書いてあって、見返してみるととても面白いものです。女房と喧嘩した事や旅行に行った事等、家族との記録もとても大切です。ちょっとした事なのですがそこにヒントがあって「あの時何だったっけ？」という調べのものには

私の 10 年日記が必ず使われます。

中学生の頃から日記をつけたいと思いつつ殆どが 3 日坊主でしたが、50 代から始めて現在 60 代になり、10 年日記をつけてとても良かったと思います。これを始めたきっかけは、大宮からいらっしゃる私の患者さんに教えて頂いてからです。その方はずっとフルマラソンをやっていて、70 を過ぎたとても体の事に気を遣うスレンダーな方でした。私のところに 5 年来ていて、亡くなる前に「何かやっている事はある？」という話になって、「仕事しかないから何も出来ない」という私にこの 10 年日記を教えてくださいました。「3 行だけだけど、その中に凝縮したものがあるし、物を書くという事を一日一回やるといいよ」と言っておられて、その言葉がすごく心に残って、それから私もやってみようと思い書き始めました。

一番最初は 2007 年元旦で、前日の 31 日に外へお参りに行って、家族 3 人が風邪でダウンしたという風にしてあります。

この 3 行の日記は、10 年間よくぞここまで来たなと思って、自分で自分を褒めているただ一つの事です。皆様もし機会があたり、10 年日記をやってみるといいと思います。

自分ではあと 20 年で 2 冊は書けるかなと思っています。



幹事報告

益子幹事

1. 地区より

- ・ロータリーの友 第一ゾーン会議における情報募集の議題の投稿のお願い
 - ◆女性が入会してクラブが活性化したクラブ
 - ◆例会の席で工夫をしているクラブ
 - ◆社会奉仕事業を行った後のメンテナンスを行っているクラブ
 - ◆郷土芸能・古典芸能を支えるクラブ
- ・『第2570地区 地区大会のご案内』
- ・『地区大会に於ける各クラブ紹介の写真と紹介文及びスライドの依頼』
- ・『第2回 第3グループ会長・幹事会のご案内』
- ・『ロータリー財団部門セミナーのご案内』
- ・『青少年奉仕部門リエンション』開催のご案内
- ・『社会奉仕部門研修セミナー 開催通知』

2. 公益財団法人米山梅吉記念館より

『秋季例祭のお知らせ』と『館報 第28号』

3. 例会変更 所沢 RC

4. 受贈会報 所沢中央 RC 入間南 RC

「米山記念奨学生挨拶」・・・・・・・・

ホロワさん



皆さんこんにちは。久しぶりです。おみやげがあるので、馬乳酒と旗です。旗とお酒とお茶はモンゴル人が一番尊敬している人にさしあげるものです。黄色い油で乳製品で作られたものと、青いのは干したヨーグルトみたいなもので、それから干した牛肉とミルクティーでお湯を入れるだけです。私は6月28日に内モンゴルのフフホトに行きました。私の研究テーマは内モンゴル正藍旗の遊牧民です。



6月29日から内モンゴル師範大学、内モンゴル農協大学、内モンゴル経済大学、内モンゴル図書館に行きました。大学で10人ずつ選んでインタビューしました。インタビ

ューの内容は、今の大学生や若者たちが自分たちの遊牧文化とか今のモンゴルの文化についてどのように考えているのか、全部で50人インタビューしました。内モンゴル図書館では1990年外国開放したあとから1915年のこの15年間の間の環境変化と文化変化、人数がどのくらい減っているか、あるいは増えているか、これについてインタビューしました。

7月18日に内モンゴルのシリントルのシリントトに行きました。シリントトには高校が2つあります。市の高校は全部モンゴル語で、盟の高校は10クラスがモンゴル語、10クラスが中国語で教えています。高校生の1.2.3年生を5人ずつ選んでインタビューしました。

8月5日に内モンゴルの正藍旗に戻りました。27日からずっと、すごく小さいなかの方に行きました。私が小さいころ生まれ育ったところです。今年で28年ぶりでしたけど、見てすごく涙が出ました。

「会員卓話」・・・・・・・・

若松 泰誼 会員

『旅行を通じて感じたこと』



皆さん、こんにちは今日の「卓話」は皆さんも沢山の楽しい思い出があると思いますが「旅行」についてお話したいと思います。最後までよろしく願いいたします。

私の趣味の一つに旅行があります。国内、海外を問わず誘われたら大体行きます。また自分でも企画して仲間を誘い、色んな所へ旅しています。何故か一人旅はありません。私が行く旅行にはいくつかのグループがあります。その中でも大事にしている旅行のグループに「一期一絵」の会があります。名前の由来でございますが、本来ですと「一期一会」の「会」は「会う」であります、この会の「会」は「絵」であります。

これは多少訳がありまして、私らしくないと思われるかも知れませんが、私が時々訪ねる所に銀座の画廊の「シルクランド」という画廊があります。そこに来店されたお客さん達で旅行好きが集まって企画された旅行グループであります。絵を通しての出会いと言う事で「一期一絵」であります。

私は特に「絵」に造詣が深い訳ではありませんが、画廊の経営者達と知り合いで仲間に入れてもらっておりますが、何となく態度が大きいものですから「会」の“会長”を仰せ付かっております。

今月末からオーストリアとチェコに行きますがこの会も今年で10年目になります。会の目的は年に一回、約10日間ぐらい掛けて行ったことの無い国を訪問し、その国の文化、美術館や遺跡巡りをして見聞を広げると言う事であります。最初の旅から紹介しますと、「中国のシルクロードの旅」、「トルコ」、「インド」、「北欧4ヶ国」、「スペイン」、「カナディアンロッキー」、「オランダ・ベルギー」、「南フランス」、「イタリアのシチリア島」という楽しい旅を毎年実施しています。

参加する方も様々で、北は東北地方から南は九州の方まで、仕事も社長から医者、大学の先生や仕事を卒業された方、天下の素浪人といった具合で色んな方達の集まりです。毎年20人前後位、メンバーはその年によって入れ替わりますが、ご夫婦で参加する方も多いですね。今回は方々行った中で特に印象深かった「北欧4ヶ国」のエピソード等の話をいたします。「北欧4ヶ国」と言

いますとデンマーク、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドがありますが、各国の首都を2泊ずつ滞在し、機中泊を入れて10日間の旅です。4ヶ国ともそんなに大きな国ではありません。



土地はそれなりに広いんですが、人口はどの国も4~500万人です。だから国の福祉が国民一人ひとりに行き渡るのかも知れませんね。



それでは先ず最初の訪問地デンマークのコペンハーゲンでの出来事を話します。午後の3時頃コペンハーゲンに着き、ホテルにチェックイン、荷ほどきをしていると突然携帯が鳴り、出ますと男性から日本語で「若松さんですか?」と問い合わせがありました。



簡単に説明しますと、私の3才後輩で妹と同期で偶々日本の妹の所へ電話したら「兄貴がデンマークに行くよ」という事で電話が入った次第です。早速「ロビーで会いましょう」となりました。彼は日本人の奥さんと二人で見え、「何でデンマークの国籍を取られたの?」等の話を聞く内に、内容が大変面白くて勿体ないからグループの皆さんに聞かせたくなり、食事を誘って話を聞きました。食事場所は元修道院をレストランに改造した所で雰囲気も良く、料理も美味しく、皆さんの了解を得ていよいよ彼の順番でした。以下彼の話の概要を省略して話します。※18才で地元宮崎の高校卒業後、西武鉄道に入社、中・高校の頃から海外の方との文通に励み、いつかは海外に出て行きたいと夢を膨らまさせていました。

26才の時に貯金した僅かな金を持って行動開始、横浜港からインド行きの貨物船に潜り込み、先ずインドへ。インド入国の際、「何日滞在しますか? 帰りのチケットは?」等求められたが、そんな物は素より無く、「船に忘れて来た」の一点張りで何とか入国・・・。

40数年前の話ですから 入国審査も多少いい加減だったのかも知れません。



何となく大人しい感じしか持っていないので、その行動力にビックリ。その後彼はインドに入国するやヒッチハイクでトルコへ移動、その道中で現夫人と出会い、何となく志を共にする二人は意気投合し、その後の行動を共にする。トルコで皿洗い等の仕事をしながら情報を収集し、長く住むならスウェーデンかデンマークと決めたんだそうです。

その後苦節を重ね、遂に二人はデンマークへ定住。

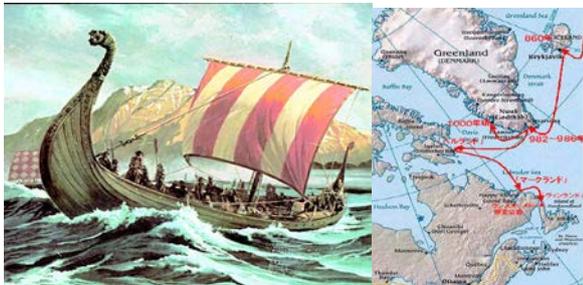
二人とも介護士の資格を取り、二人の子供と四人の孫に恵まれ、現在は国籍も取得し幸せな日々を送っている。

一昨年久し振りに帰国した彼等と会いましたが、今は仕事も終わりのんびりと生活しているとの事、福祉国家デンマークを選択した彼等を見ると、世知辛い老後を心配しなくてはいけない日本より良かったかも知れません。

次の訪問国ノルウェーでは世界遺産の街ベルゲンを中心に観光、特に世界最大のフィヨルドのゾグネでは船に乗り観光、誰かが船中で「ここは海拔どれくらい」と質問し「ここは海です」と言われ大笑いしたのですが、そう勘違いさせる位山奥の海であります。



ノルウェーと言うと「バイキング船」が有名ですが、アメリカ大陸の発見は1492年のコロンブスがというのが定番ですが、実はこれより遙か以前、7世紀頃に「バイキング船」に乗ったノルウェー人がアメリカ五大湖の辺りに渡り、居を構えたという話を皆さんご存知でしたか？



バイキングの遺跡がカナダの島で発見

オスロの国立美術館ではエドヴァルド・ムンクの絵を見ました。あの有名な「叫び」等が展示してありますが、我々素人には、あの絵を見て“何で素晴らしいのか”がよく理解出来ませんでした。絵と言うのはつくづく奥が深いなあと思いました。

次の訪問地はスウェーデンのストックホルムです。ストックホルム市庁舎はノーベル賞の記念晩餐会が行われる所ですが、私も受賞者達が夫人を伴って降りてくる階段で写真やらを撮りましたが、この天井の高い式場で真冬に行われる授賞式は“さぞや寒いだろうなあ”と思うところでした。

スウェーデンと言うと金属加工が素晴らしく、特に女性の飾り物では有名で美智子皇后が皇太子妃時代に訪問された時、ペンダント等の買い物をした店がありました。

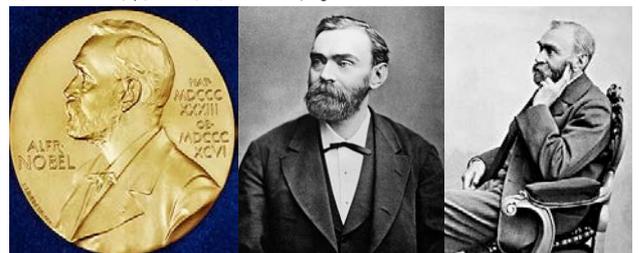
そのスウェーデンのノーベル賞晩餐会で使われる食器類は、只一点を除き全てスウェーデン製

であります、スウェーデンで作れない一点とはカトラリーと言う食器、つまりホーク・ナイフ・スプーンです。



以前から、海外展開に力を入れていた山崎金属工場は、有名デザイナーとコラボレーションを組み、高級市場向けの商品開発に取り組んでいました。その時に、ノーベル賞で使用するカトラリーのデザインを手がけていた、スウェーデン人のゴナ・セリンという人物との出会いがありました。本来、晩餐会の食材や食器はスウェーデン製の物を使うが、カトラリーは国内で調達できませんでした。そこで、戦前からスウェーデンとの取引があった、山崎金属工場の最高技術のカトラリーが急遽使用される事になりました。

複雑なデザインで研磨が出来る技術が国内になく、何と新潟県燕市の山崎金属工業で製作されています。日本のモノ作り技術がここでも生きているのかと嬉しくなります。



余談ですが、ノーベル賞設立の理由をご存知でしょうか？ノーベルさんが43才の時、ウィーンで恋に落ちた花売り娘ゾフィ・ヘスはとんでもない悪女。

15年間の交際では浮気や恐喝を繰り返し、何とノーベルさんは死ぬまでにつぎ込んだお金は約300億円以上。反省したノーベルさんは今度は財産を人類の役に立つようとノーベル賞設立を遺言されたんだそうです。反省は誰でも出来るけど凄いなね。(お金は活かして使う事ですね)

次の訪問地フィンランドのヘルシンキでは、バルト海クルーズ船で移動、客船の中は小さな街でショッピングアーケードや、ナイトクラブ、ディスコと豪華ホテルの雰囲気でした。



翌朝ヘルシンキに到着。ヘルシンキの人達は大的日本人好き、街の大通りの名前が東郷通りと名付けてありました。理由は昔からフィンランドはロシアから属国的な扱いでいじめられていましたが、日露戦争の日本海海戦で東郷平八郎がバルチック艦隊を破ったお蔭でロシアからの自立が出来、それを記念して名付けられたんだそうです。その夜の出来事ですが、私が友人とホテルのバーで飲んでいると現地人の4・5人の40代位の若者達が我々に話しかけてきました。

その内容とは「自分達は学校の教師である。我々は大の日本好きで教育の目標は“日本に追い付こう”で進めてきました。ところが現在の日本はどうですか？フィンランドはお蔭で世界一になった。

日本はベスト10にも入っていない。最近日本もゆとり教育をやめてやっと修正しつつありますが、国を創るのは教育ですから、しっかり努力して世界の目標にならんとまずいなあと思う事でした。(帰国)

今回の旅行を通じて感じたことは、北欧の景色や文化も素晴らしいが、いろんな方達がいろんな目標を持って頑張っている方達の話聞くことが出来た事でした。

説明足らずで解り難かった事と思いますが、これで卓話を終わります。

ありがとうございました。

ニコニコボックス

米山記念奨学部門委員長 忽滑谷 明 様

奨学生ホロワさんがお世話になり有難うございます。本日は宜しく願い致します。

佐藤君 本日は多数のお客様がお越しくださいますして有難うございます。又、会員卓話の若松パスト会長、卓話楽しみにしております。新狭山 RC の立花様、シルクランド画廊の顧定珍様、米山記念奨学部門委員長忽滑谷様、米山奨学生のホロワ様、皆様ようこそお越しくださいました。宜しくお願い致します。

益子君 若松パスト会長の卓話の時間楽しみにしていました。宜しく願いします。

江原君 新狭山 RC 立花様、米山記念奨学部門委員長 忽滑谷 明様、本日はようこそお出で下さいました。またシルクランド画廊取締役画廊 GM でいらっしゃいます顧定珍様、遠い所お出で下さり有難うございます。皆様当クラブの例会を十分に楽しんでいただきたいと思います。そして本日の会員卓話の時間で若松パスト会長のお話を聞かせていただけますことを楽しみにしておりました。何卒宜しくお願い致します。

浜野君 顧さん、お久しぶりです。相変わらずとってもお綺麗ですね。海外旅行では大変お世話になりました。有難うございました。

今日は早退で、若松パスト会長の卓話をお聞き出来なくて大変残念です。ごめんなさい。

稲見君 若松パスト会長、今日のお話し楽しみです。

小島君 米山奨学部門委員長 忽滑谷明様、新狭山 RC 立花康行様、シルクランド画廊 顧定珍様、米山記念奨学生 ホロワさん、ようこそお出でいただきました。会員卓話の若松パスト会長お話し楽しみにしていました。

守屋君 会長殿の10年日記大したこと。私は3年で途切れてしまいました。残念です。若松氏の旅行記楽しみです。

小澤君 若松パスト会長の卓話、大変楽しみにしております。加えて昔からお世話になっている美人に数年振りにお会いできて今日は大変幸せです。

清水君 若松パスト会長、本日の卓話楽しみにしております。宜しく願い致します。

若松君 今日は貴重な時間を頂き有難うございます。卓話頑張ります。

会員誕生祝 田端君、松浦君

夫人誕生日 江原君、田端君

結婚記念日 稲見君、松浦君、佐々木君

※ 次の例会

9月13日(火) 12:30~13:30

第2副SAA: 石川君 片山君

外来卓話: 童絵作家

池原 昭治 様